

ボローニャ・プロセスの光と影

ドイツ、スイス、日本における教員養成制度改革

プログラム

コーディネーター・通訳（ドイツ語⇄日本語）：ペーター・アッカーマン教授 Peter Ackermann
〔エアランゲン・ニュルンベルク大学・ドイツ〕

司会：赤木 登代〔国際センター准教授〕

開会のあいさつ 向井 康比己〔国際センター長〕

基調講演 「ヨーロッパの高等教育改革と教員養成制度、アジアでの導入の是非」
栗林 澄夫〔大阪教育大学副学長〕

1) Zwischen Professionalisierung und De-Professionalisierung – Über die Folgen des Bologna-Prozesses für die Lehrerbildung.

「専門職化と脱専門職化の間—教員養成におけるボローニャ宣言のもたらした結果について」

エックハルト・リーバオ教授 Eckart Liebau

〔エアランゲン・ニュルンベルク大学・ドイツ〕

2) 「スイスのギムナジウムにおけるボローニャ宣言の影響(仮題)」

ギーゼラ・マイヤー・シュトゥーシー講師 Gisela Meyer Stüssi

〔自由ギムナジウム・ベルン教員、ベルン教育大学講師・スイス〕

3) 「ボローニャ・プロセスとドイツの教員養成改革」

木戸 裕 氏〔国立国会図書館調査及び立法考査局専門調査官〕

4) 「日本の教師教育—養成・採用・研修と質保証」

富田 福代 氏〔関西国際大学教授〕

質疑応答・ディスカッション（通訳あり）

閉会のあいさつ 向井 康比己〔国際センター長〕

*発表はそれぞれドイツ語・日本語で行われます。発表（20分）のあとに日本語またはドイツ語での要約（5分）がなされます。また、配布資料には日本語で発表要旨が記載されています。尚、質疑応答には逐次通訳が入ります。

主催：大阪教育大学 国際センター
申込不要・参加費無料

2010年2月20日(土)
13:30 ~ 17:30

現在ヨーロッパでは「ボローニャ・プロセス」あるいは「ボローニャ宣言」と呼ばれる高等教育改革が推進されている。本シンポジウムでは、ヨーロッパの高等教育における共通の枠組みを構築し、教育の質向上を目指したこのプログラムが、教員養成制度に及ぼした功罪に迫る。その際、ドイツの大学における教員養成課程およびスイスのギムナジウムという2つの教育現場からの例を取り上げる。また、このような制度が、日本を含むアジア、あるいは東アジアの文化圏においても、検討されるべき有効な手段なのかを考察するきっかけとしたい。



場所：大阪教育大学天王寺キャンパス
ミレニアムホール

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88

問い合わせ先：大阪教育大学 国際センター

所在地：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

電話：(072) 978-3217 ファックス：(072) 978-3554

電子メール：isc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp